

ウェールズの文化とことば B

担当教員	小池 剛史
曜日・時限・開講期	金曜日 4 時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	3 年生
単位	2
開講キャンパス	板橋

授業の概要	英国を構成する4つの国の一つであるウェールズの文化、そしてウェールズで話されているケルト語、ウェールズ語を紹介し、文化・歴史については、カムリの敗北の歴史、カムリ独自の文化を守った人々、カムリの伝統文化の一つ、詩の伝統、ハーブ音楽、そしてカムリ語の復興運動、ウェールズのスポーツ、ラグビーなどを紹介します。カムリ語については、天候を表す表現、時間を表す表現、場所を表す表現、所有を表す表現などを学び、自分自身についてある程度話ができるようになります。
授業の到達目標	1) ウェールズの文化と歴史に触れ、理解すること、そして2) 簡単なウェールズ語をマスターすることである。2) については、「ウェールズの文化とことばA」で学習した内容（教科書の第1課～第5課の内容）を踏まえ、天候、時間、場所の説明、さらに自己紹介などがウェールズ語で出来るようになることを目指します。
授業の形態	ウェールズ文化については小池による講義形式で行います。ウェールズ語についての授業は、小池による簡単な説明の後、学生同士で会話練習を行ったり作文をしたりします。

授業計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	ウェールズ語の基本（前期の学習事項の復習）	小池剛史
第2回	ウェールズ語：「今日アベラストウィスでは晴れています」 Mae hi'n braf yn Aberystwyth.「今日サンゴセンでは雨が降っています」 Mae hi'n bwrw glaw yn Llancollen.	小池剛史	
第3回	ウェールズの歴史（1）：最後のウェールズ大公セウェリン；イングランドによるウェールズ征服	小池剛史	
第4回	ウェールズ語：「今何時ですか？」「午後3時です」 Faint o'r gloch yw hi nawr? Mae hi'n dri o'r gloch nawr.	小池剛史	
第5回	ウェールズの歴史（2）「カムリ大公」を名乗った男、オワイン・グリンドウール	小池剛史	
第6回	ウェールズ語：「あなたは今どこにいますか？」「私は今本屋の前にはいます」 Ble rydych chi nawr? Rydw i o flaen y siop lyfrau.	小池剛史	
第7回	ウェールズの文化（1）ウェールズの伝説物語「マビノギオン」	小池剛史	
第8回	ウェールズ語：「私は今カムリ（ウェールズ）にいます」 Rydw i yn Nghymru nawr.	小池剛史	
第9回	ウェールズの文化（2）ウェールズの詩の伝統、ウェールズの文化の祭典「アイステズヴォッド」	小池剛史	
第10回	ウェールズ語：「この町には良い本屋がありますか」 Oes siop lyfrau dda yn y dre 'ma?	小池剛史	
第11回	ウェールズの文化（3）ウェールズの楽器、ハーブとケルズ・ダント	小池剛史	
第12回	ウェールズ語：「あなたは辞書を持っていますか？」 Oes geiriadur 'da chi?	小池剛史	
第13回	ウェールズの歴史（3）炭鉱とラグビー	小池剛史	
第14回	ウェールズ語：後期のまとめ	小池剛史	
第15回	ウェールズの歴史（4）ウェールズ語の復興運動	小池剛史	

授業外の学習	毎回の授業で予習を課します。予習箇所を必ず読んでから授業に臨むこと。また、ウェールズ語については教科書の各課の終わりにある練習問題を使って何度も会話練習を行うこと。授業外の学習に必要な時間は1回の講義に対して4時間。		
教科書	『ウェールズ語の基本』（永田喜文、小池剛史 著：三修社）；このほか、適宜参考資料を配布します。		
参考文献など	永田喜文（著）『ケルトを旅する52章—イギリス・アイルランド—（エリアスタディーズ 94）』明石書店（2012） 吉賀憲夫（編）『ウェールズを知るための60章（エリア・スタディーズ 175）』明石書店（2019） ジャネット・デイヴィス（著）小池剛史（訳）『ウェールズ語の歴史』春風社（2018）		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	なし。
	実技評価	50	日本文化をウェールズ語で紹介する動画を作成します。
	レポート評価	20	ウェールズ文化に関する文献を使用し、大学のレポートとしての体裁を整えたもの。
	平常点評価	30	毎回の授業内でのウェールズ語活動への参加など。
その他	0	なし。	
履修上の注意	ウェールズ語をある程度マスターするために、毎日の授業で宿題を課します。		
連絡先・連絡方法など	メールアドレス：t048276@st.daito.ac.jp		
その他	ウェールズ語を楽しく話しましょう。		